

仁多地域統合小学校の建設地の判断について

【建設地等について】

建設地については、町長として「三成小学校敷地」にしたいと決め、明日12月5日（月）開会の12月定例議会に関連補正予算を上程し、議会の判断をいただくこととした。

また、起債などの財政上の見通しが立てば、当初そのまま利用するとしていた三成小学校屋内運動場を町民体育館兼用（1,200㎡程度）のものとして、小学校敷地にて改築し、町民体育館跡地を要望の強い三成地区の今後のまちづくりのために確保したい。

議会はもとより、保護者、各校区別協議会をはじめとする仁多地域の皆さんの、「これ以上統合を先送りしてほしくない」「整った教育環境のなかで学ばせたい」「三成のまちづくりを何とかしたい」との強い願いの中、これまでの議論や令和8年度仁多地域統合小学校開校、教育環境、安全確保、まちづくり、工期、整備費の観点から総合的に考え、現三成小学校にて、建築することが望ましいと町長として判断するにいたった。

なお、布勢小学校については、耐震代替校舎建設の課題もあることから、令和8年度統合を前倒しして三成小学校へ統合し、三成小学校耐震代替校舎のみで対応できないか、布勢小学校区と検討・協議を進めさせていただきたい。

このことについては、従来からの説明どおりに布勢小仮設校舎を設置することを否定はしないが、現布勢小校舎の取壊し、未耐震の布勢公民館に替わる布勢地区拠点施設整備などが一体的に解決する可能性があることから判断した。

※財政運営上、屋内運動場を同時改築することが困難な場合は、後年度において改築する。

※三成小学校耐震代替校舎（仮設校舎）建設については、当初仁多中学校隣接地を計画していたが、児童の登下校の負担と安全面、教育の環境面、放課後児童クラブなどの利便性等について、学校の意見も聞き改めて考え、プール位置に設置することにより、三成小学校敷地での安全面と幾分かグラウンドが確保できるとの判断にいたった。また、仮に布勢小学校が前倒し統合したとしても学級数に変更が生じないため対応は可能である。

【三成小学校敷地と判断した理由】

●子供たちの教育的な学びの視点（教育環境）

①各小中学校長からの意見聴取では、子供たちのことを第一に考えて欲しい

とのことであり、その視点としては、大人の見守りや、町へ出かけての学びの重要性、役場・公民館、カルチャープラザ図書室、放課後児童クラブ等の利用の利便性、低学年の登下校の体力的負担と安全性などを考慮され、すべての学校長が三成小学校敷地を適地とする意見であり、教育現場全ての責任者の意見を重く受け止めた。

②再度の見直し案により、三成小学校敷地でも町内最大の約 6,000 m²のグラウンドが確保できること。

③義務教育学校や小中一貫校は、小中一体型の校舎や隣接した校舎でなくても可能で、すでに小中一貫教育を導入している松江市では、義務教育学校として運営している玉湯学園、八束学園を除いて、中学校区を単位とした複数の小学校を束ねた「施設分離型」の小中一貫校（教育）で運営している。

④義務教育学校のメリットには、中1の壁の緩和・解消、系統性を意識した小中一貫教育、異学年交流などが挙げられるが、小学生低学年への配慮や小学生高学年のリーダーシップを養う事への配慮、受験を控える中学生への配慮等、課題もある。

施設整備においては、中学校校舎相当、小学校校舎相当のゾーンを適正に確保する必要があるとされ、仁多中学校の隣接地、三成小学校敷地のいずれにしてもこの教育環境的に適正な配置が困難であるとともに、事業経費的なメリットがあまり生まれてこない。また、小中両方の免許を持つ教員を配置する必要があるが、義務教育学校は現状では非常に困難な状況にある。

なお、いわゆる「中一ギャップ」は、各地域1校ずつとなるので、ほぼ解消されるとの学校長の見解であった。

また、義務教育学校の場合、教員数を減らすことによる経費的合理性も考えられるかもしれないが、私は校長を含む教員数をできるだけ奥出雲町に確保することが望ましいと考えており、まずは小学校、中学校のそれぞれの教員数を確保して、とくに、統合される小学校教員には、早く一体となった小学校作りと児童の教育に専念いただきたいと考えている。

⑤奥出雲町の場合、横田地域においても中学校1校、小学校1校となるので、小中一貫校（教育）は、諸課題はあるが比較的やりやすい環境になると思われる。仁多・横田地域ともに丘の上にある中学校と「まちなか」にある小学

校との位置関係など、両地域同等な教育環境による「施設分離型」の小中一貫教育を見据えて、より一層の小中連携強化を図り、将来的には文部科学省が推進しているコミュニティースクール、地域学校協働本部の設置により、「地域とともにある学校への転換」、「子供も大人も学びあい育ちあう教育体制の構築」、「学校を核とした地域づくり」を、行政のみならず、町民の皆さんとの協働による小中一貫教育を目指して推進することが重要であるとの考えに至った。

- ⑥奥出雲町の小学校統合はこれまで、町の進め方も不適切であったこと等から、各学校や、地域、保護者の皆様に長年負担をかけてきたこともあり、ここにあってさらに、これまでの議論から中学校の統合まで議論を戻していくことは、上記の教育目的の判断と、現在の耐震性の無い校舎で学び続けている子供たちのことを総合的に考えると今決断すべきと考えた。

●中学校生徒への影響

- ①仁多中学校の裏山の工事については、不測な追加工事や相当な工期延長となることが容易に予想されるとともに、複数年におよぶ中学校生徒への工事（重機・トラックの出入り騒音等）の影響は多大と考える。また、令和8年度開校に間に合うかも懸念される。

なお、仁多中学校のレッド解消は小学校統合の位置の如何にかかわらず、対策を進めていく考え。

●三成連坦地のまちづくりの視点

- ①私自身の思いとしても、三成地区のまちづくりは、今後の奥出雲町の将来にとって重要だと認識しているし、一定の投資も必要と考えている。しかし、まちづくりについては、町長の意思のみでできるものでなく、地域に実際に住む住民の皆様と、話し合い、合意をもとに、しっかりとしたまちづくり計画を作った上で、進めていかななくてはならない。

三成の中心地に商業施設をという貴重な意見もあるが、そうしたまちづくりを進めていくためにも、三成地区の大半のご意見も小学校が「まちなか」にあることを考慮したまちづくりを希望しておられ、こうしたまちづくりを推進していくためには、学校のみならず、町民体育館や要望のある若者定住住宅、既存の商業施設などをうまく配置した計画を進めていくことが重要だ

と判断し、現三成小学校敷地での町民体育館兼用屋内運動場を含む統合小学校建設を判断した。

※三成地区アンケート結果や自治会意見を無視し、仮に仁多中学校隣接地に統合小学校を建設した場合、今後のまちづくりを進めていくことは極めて困難と考えられる。(三成小学校隣接の居住者3名は、「子供たちのためなら」とのことで、移転について内諾を得ている。)

②町民体育館兼用の仁多地域統合小学校屋内運動場を建設することで確保できる上に、現町民体育館の敷地（公民館含む）約3,500㎡を商業スペースなど様々な用途に活用できるとともに、町土地開発公社の所有地、未確定であるが仮に老健が移転するのであればその跡地も利用可能である。特に、現町民体育館は、周りからも見えやすく、商業施設等には有利な立地条件にある。

③三成連坦地のまちづくり計画については、行政だけではなく、地域の皆さんも一緒になって議論を重ねながら今後進めていきたい。

●将来的な事業予算（投資額）の視点

①町財政を考えた場合、校舎建設だけでも事業費は多額であり、補助事業費や起債発行額も上限枠があり、これを超えたものは、直接町の負担となるため、現時点で、事業費の総額が明らかに大きい方を選択することは困難である上に、不測な追加工事等や工期の延期が発生する可能性がある仁多中学校裏山の大規模な造成工事は可能な限り避けるべきと判断した。(特に、工事費は現在の社会情勢を考慮すると上昇傾向にあり、他の社会資本整備や町行政全般に影響を与える可能性が高い)

※現在の見込みは仁多中学校裏山の掘削造成工事4億8,700万円は搬出土の9割を土砂採掘業者等により無償で搬出する計画によるもので、実現できなければ、残土処理費が嵩み2億円以上増額となる可能性がある。さらに不測な追加工事があれば、それ以上となる。

また、土砂採掘業者が運搬する場合は、発注者側の工程どおりにいかない事が想定され、統合の目標の令和8年4月に間に合わない可能性がある。

②三成小学校敷地案であれば、町民体育館兼用の屋内運動場を建設することで、町民体育館の未耐震問題を解決すると同時に、将来の投資額を軽減できるほか、既存の三成小学校施設解体費及び仮設校舎については有利な起債を充当できるため、将来的な財政負担を抑えることもできる。

③将来的な人口の減少や、学校再編により各学校の屋内運動場（9か所）が町民用体育館となることなどを考えると、将来的に町民体育館を別途さらに建設すべきでない判断し、三成小学校兼用体育館とした。

※三成小敷地周辺において、夜間や休日・祝日であれば、役場仁多庁舎駐車場、役場職員駐車場、カルチャープラザ横駐車場等で300台程度の駐車が可能であり、大きな行事でも対応できるキャパシティを確保でき、利便性も高い。（小学校グラウンドも利用可能）

※仁多中学区隣接地は三成公園ホッケー場、野球場周辺の駐車場が利用できるが、建設候補地からの距離があり、移動中坂道も多い。また、中学校屋内運動場を解体して小中学校兼用の屋内運動場を建設する案では、中学生は部活動が土日などにもあり、町民体育館としての機能を果たせないため、別途、町民体育館を建設する必要がある。

以上のことから、「教育」と「まちづくり」、「早期の統合」「財政的な負担」といった要素を総合的に考え、「三成小学校敷地での統合小学校建設」を進めたいと判断をいたしましたので、是非ともご理解とご協力をお願いいたします。

仁多地域統合小学校（案）



三成小学校耐震代替校舎（案）



* 実際の配置、形状は変わる可能性があります。